
演題名 HER2 増幅陽性進行・再発肺癌の臨床的特徴と共変異解析

演者氏名 土肥 和佳

所属先 近畿大学内科学教室腫瘍内科部門

・筆頭著者・共著者の氏名

土肥和佳¹⁾、高濱隆幸¹⁾、村田大樹¹⁾、金村宙昌¹⁾、谷崎潤子¹⁾、田中薫¹⁾、岩朝勤¹⁾、林秀敏¹⁾

・全著者の所属施設を記載

1) 近畿大学内科学教室腫瘍内科部門

・【背景】HER2 (ERBB2) 増幅肺癌の臨床像は報告が限られ、既報では男性・喫煙歴が多く、TMB high の症例が多いとされているが、特に日本人のデータは乏しい。また HER2 変異を標的とした臨床研究の進展に比べ、増幅の分子背景は未整理な点が多い。

【目的】当院で遺伝子パネル検査により HER2 増幅を確認した進行・再発肺癌の臨床背景・共変異プロファイルを記述し、既報の傾向との整合性を検証する。

【方法】2019 年 6 月～2025 年 4 月に当院で FoundationOne® CDx を施行し HER2 増幅を認めた進行・再発肺癌を後方視的に解析。患者背景（年齢・性別・喫煙歴・組織型）、共変異等の有無を抽出し記述統計を行った。

【結果】対象は 5 例（腺癌 4、扁平上皮癌 1）。年齢中央値 61 歳（59–62）、男性 4 例（80%）、喫煙歴 4 例（80%）。TMB 高値 2 例（40%）。共変異は MET 増幅 2 例（40%）、SMARCA4 変異 2 例（40%）を認めた。EGFR-TKI 耐性後は 1 例（20%）であった。

【考察】男性・喫煙歴の偏在、TMB 高値の割合、MET 増幅／SMARCA4 変異の併存はいずれも既報の傾向と一致し、HER2 変異陽性肺癌とは異なる背景が示唆された。特に、MET 共増幅は抗 HER2 治療の耐性機序とも関わり得る論点であり、併用戦略検討の仮説となり得る。

【結論】当院の HER2 増幅陽性進行・再発肺癌では、HER2 変異陽性例とは異なる臨床・分子像が示唆され、検査戦略（パネル＋IHC/FISH の補完）と治療戦略最適化に資する基礎データとなると考えられる。